

心肺蘇生の方法と AED の使い方

★強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫をする。

★救急隊に引き継ぐまで、または子どもに普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける。

①反応の確認

- ◆肩を叩いて大声で呼びかける。
- ◆乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける。



反応がない

②119番通報と AED の手配

- ◆119番通報する。
(大きな声で、人を指名し、「あなたは119番に連絡して下さい。」)
- ◆AED の手配を頼む。
(大きな声で、人を指名し、「あなたは AED を持ってきて下さい。」)



③気道の確保 (空気の通道路の確保)

- ◆片方の手を額に当てる
- ◆もう一方の手の指2本を、あご先に当てて上に持ち上げる。



④呼吸の確認 (10秒以内で呼吸の確認)

- ◆「見て(胸とお腹の動)・聞いて(呼吸の音)・感じて(吐く息)」
4・5・6・・・10」



普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしいてる
ようなら、観察を続けながら
救急隊の到着を待つ

※救助者が2人以上いる場合は
交代で絶え間なく続ける。
AED が届くまで、または
救急車が来るまで続ける。



⑤必ず胸骨圧迫、可能なら人工呼吸 (回数 胸骨圧迫:人工呼吸 = 30 : 2)

- ◆ただちに胸骨圧迫を開始する。人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う。

【胸骨圧迫のポイント】

- 圧迫する位置は胸の真ん中
- 強く (胸の厚さの約 1/3 沈むくらい)
- 速く (少なくとも 100 回/分)
- 絶え間なく (中断は最小限にする)



【人工呼吸のポイント】

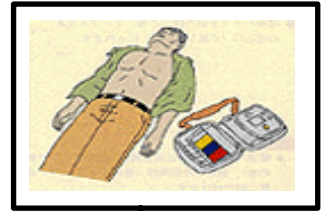
- 息を吹き込む際は、③の状態で、鼻をつまみ
- 1 回に約 1 秒かけて、2 回吹き込む
- 胸が上がり、膨らむの見える程度





⑥AED のメッセージに従う

(1) AED を傷病者の胸部の左側に置く



(2) ふたを開け、電源を入れる (ふたを開けると電源が入るものもある)

※電源は、救急隊に引き継ぐまで消さない。



(3) 電極パッドを装着する

○胸部にしっかり貼り付ける。

○ケーブルが本体に接続(確認)する。

★水分・・・拭く、アクセサリ・・・はずす、胸毛・・・剃る

ペースメーカー・・・3cm以上離す

★電極パッドを貼りつける時も、できるだけ胸骨圧迫を続ける。

★6 歳くらいまでは小児用電極パッドを貼る。なければ成人用電極パッドで代用する。



(4) 心電図の解析

○解析中は傷病者から離れるよう呼びかける。

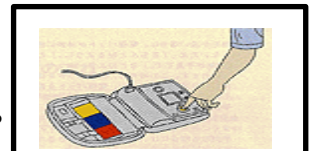
(救助者、介助者、周囲の人達へ)

○解析中は傷病者に触れない。



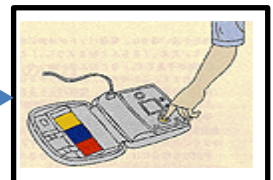
(5) 指示があれば 除細動ショック

○誰も傷病者に触れていないことを確認したら、ショックボタンを押す。



(6) AED の指示アナウンスに従い、必要であれば、救急隊が到着するまで

⑤の心肺蘇生法と(4) (5)の除細動ショックを繰り返し実施



※救急隊へ除細動ショックの回数や時間等を伝える。